

心つないで

No.27

発行

2011年10月17日

東日本大震災

ろっこう医療生協・対策本部(本部長・金丸正樹)

(ろっこう医療生協・本部内 Tel 078-802-3424)

第15陣・伊田管理者(あんず)と松岡事務長(相談室)の大船渡報告<10/11~14>

■ 第14陣は伊田看護師と松岡事務長が現地入りし活動しました。

・13日、総合運動公園の仮設住宅を訪問。避難所でも震災前と同じ漁港で獲れたカレイを干す仕事をされている方です【写真・右】。最近調子が良くないと言われていましたが、とても明るく話をされていました。

・12日、赤崎町の借り上げ住宅を約20軒訪問、健康調査票を1枚回収。沢川仮設住宅でのお茶っこに参加。血圧測定を楽しみにされていたようで喜ばれました。また遠野市からパンジーの苗や株と小松菜の種が届き、そのお手伝いをしました【写真・右下】

・今日のミーティングから大船渡病院の精神科の医師も参加し、今後は被災された方の精神科フォローも含めたケアをしていくことを確認しました。かなり寒くなってきました。



避難所でもカレイを干して

◆当生協の大船渡での行動が、日本生活協同組合連合会の情報誌で紹介されました。【写真・下】

つながろう CO-OP アクション情報 2011年10月12日 第4号

◆神戸が受けた支援の恩返しをしたい

大船渡市の「巡回訪問活動」を継続支援
～被災の痛み知る神戸・ろっこう医療生協が岩手で活動～

ろっこう医療生協 相談室(左) 松岡事務長(右)

8月以降2度目の参加となる主任介護支援専門員の塩江剛さんと、阪神・淡路大震災では約4ヶ月の避難所生活を経験した看護師の菅山紀子さん。「何かできないかと聞かされていたとき、この活動の形が持ち上がりました。私自身は被災していませんが、神戸に住む者として受けた支援に対する恩返しをしたかった」(塩江さん)。「被災された方が置かれるに任せられるのを実際に見ると、やはり辛い気持ちになります」(菅山さん)。お二人が神戸から来たことを知った被災された方が「あの時は大変でしたね。(震災で)大きな火事が起きて…」と涙の言葉をかけられる場面も。ろっこう医療生協からは、支援費20人以上の職員が岩手を訪れており、年内は支援を継続する予定とのことです。

岩手県大船渡市では、仮設住宅の建設や市による住宅の借り上げが進んだ5月より、被災者の避難所からの移行が始まり、8月中旬までにほとんどの方が仮設住宅などへ移り住みました。現在、1,801戸の仮設住宅と585戸の借り上げ住宅、約100戸の公営住宅、その他企業が準備した住宅などで生活を送っています。そこで重要となっているのが「新しい場所で暮らす被災者の地域社会からの孤立の防止」です。市では、被災された方々の入居先を巡回訪問し「健康調査案」の配布回収を通じて健康状態の確認やコミュニケーションに努めています。ろっこう医療生協では、7月よりこの巡回訪問活動に参加しています。きっかけは、同生協診療所の医師である千葉誠さんが、震災直後より被災地支援を行ってきたという「縁」と、「阪神・淡路大震災からの復興を築いた方々に、支援を通じて大船渡を勇気付けてほしい」という地元の医療関係者からの声でした。看護師1人とケアワーカーなど専務系職員1人の計2人を1週間交代で岩手に送り、全国の自治体や県内の多岐に渡る専門性を持つメンバーで構成される支援チームに参加、活動しています。

心のケアは緊急課題
巡回訪問では、「港には、心臓がドキドキして送付けない」「食欲が無くならず、7キロ痩せた」といった声が多く聞かれ、心のケアの必要性が強く感じられます。日々診療に取り組みする千葉医師も「ここまで被災に曝れていた人が、心のバランスを崩すケースが目立つ」と述べています。そうした方々を見つづけて、受診を促す機会となる巡回訪問の役割は、いっそう重要なものになりつつあります。

東日本大震災支援 11/27

バザーの品物提供して下さい!

健康まつり 開催へ!

●チャリティーコンサートのチケット
いよいよ販売開始!
2,000円、全席自由席
各診療所、本部で

買ってください! 売ってください!

